

キャラクター名
ミドリ・ツルハ

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ノイマン	ワークス	FHエージェントB	カヴァー	バー/喫茶店店員
オプション		年齢	22	性別	ヤンデレ女性
覚醒	死	衝動	嫌悪	初期侵食率	33 %
出自	片親家庭	経験	いじめ	邂逅	平穩

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0		1			1	行動値	6
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	6
精神	4		0			4	戦闘移動	11
社会	4		0			4	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC	2		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ガエレン・ティ・セルベネ (イタリア語: 蛇の毒)	RC	4r+2				侵蝕値11 対象ダイス-5 当たったらさらにダイス-2個 邪毒付与
ヒュドラ	RC	4r+2				侵蝕率100%~ 侵蝕値11 対象ダイス-6 邪毒付与

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 要人への貸し	
コネ: 手配師	
コネ: 情報屋	
コネ: 噂好きの友人	
コネ: ハッカー	
応急手当キット	
解毒剤	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
クレナイ・ロマン	P 慕情	N 偏愛		
シオン	P 慕情	N 不安		
四片リン	P 連帯感	N 不安		
達人 (アダプト)	P	N		
	P	N		
	P 憧憬	N 嫉妬		
	P 好奇心	N 嫉妬		

最大財産P: 10 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト: ソラリス	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果:	クリティカル値 -Lv							
流血の胞子	4	2	メジャー	視界	-	RC	-	
効果:	射撃攻撃 命中すれば、邪毒ランクLv							
茨の輪	2	2	メジャー	視界	-	RC	-	
効果:	射撃攻撃 命中すれば、ダイス-Lv個							
盲目の羊	4	3	オート	至近	単体	自動	-	
効果:	対象が判定を行う直前に使用 ダイス-[Lv+1]個							
戦局判断	3	4	セットアップ	視界	単体	自動	-	
効果:	ラウンド間 行動値+[Lv×3]							
言葉の盾	1	1	リアクション	至近	自身	交渉	-	
効果:	ドッジ <交渉>							
隠し味	★	-	メジャー	至近	食べ物	自動	-	
効果:	素敵なお嫁さんになりたいの。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

名前: コダイ米の一つ、緑米の「緑万葉」から、「万葉」→「蔓葉」→「ツルハ」

性格は、昔の面影が全く見られないほど明るく社会的。年齢の割に幼い面や、照れ屋さんで、恥ずかしがりな一面も。セルリーダーである「ママ」と可愛い後輩の「妹」が大好き。

母はツルハが生まれると同時に、ツルハをあゝ怪物のもとに置いて逃げてしまった。おいていかれたツルハは怪物の慰みものにされた。みじめで陰鬱とした救いのない日々、それは家の外でもそうだった。みずぼらしい姿をしたツルハに手を差し伸べる者はいない。その手にはいつもツルハに投げつけるための石が握られていた。

ツルハが15歳になったある日、目を開けると目の前には苦しげに口を動かす怪物がいた。それを見下ろしていた。ただ、それだけだった。こちらに伸ばす手が気持ち悪くて、触りたくなくて、吐き気を押さえながらその場を走り去った。狭い路地をうつむきながら歩いていた時、見つけたのが「Aster」。名前の意味は知らなかったけど、それが、ツルハの真っ暗な闇の中に唯一輝く星に見えて、温かそうなその場所の扉を開けた。そこにいたのが「ママ」だった。初めての温かさだった。

その日から、喫茶「エーデルワイス」とバー「Aster」の店員として、FHセル「Re:vive」の一員として、住み込みで働いている。あの怪物がどうなったかなんてもう知らない。「ママ」と、「妹」と、「家族」と一緒にいられることが、温かくて優しく、好き。「ママ」の役にたたくて、「妹」を守りたくて、ただ、それだけの思いがツルハを強くする。

ある小規模FHセル同士の会合が行われた際、「ママ」のお供でツルハも出席した際、「ママ」とはぐれて建物内をさまよっていた際、曲がり角で人とぶつかった。 「ママ」以外の人間は怖くて、しかも男性というのはみなあの怪物と一緒にだと思っていた。でも、その人は違った。膝をついて、助けてくれた。その手は、怖くなかった。その赤毛が、目に焼き付いた。

初めての思いに戸惑いながら、その人について深く知りたいと、その人の後ろをこっそりと追いかけた。その人は、どこかのセルのリーダーで、傍にはいつもピンクの髪の女がいて、その女と楽しそうに話している様子を見てしまって、その女がうらやましくなってしまって、もっとその人について知りたくなくて。初めて、髪の毛を切った。少しでも、可愛くなりたくて。少しでも、彼に褒められたくて。前よりも、笑顔は上手にできるようになったかな。前よりも、おし